

再生活動3年目のボランティア活動

# 高田松原植樹会



連合気仙6班のメンバー



東日本大震災津波と地盤沈下で九割が失われた高田松原の砂浜は、再生工事が進められている総延長一七五〇メートルの内一〇〇〇メートルが平成三〇年度末に復旧し、「津波復興祈念公園」内の道の駅は今夏にオープンを予定している。

気仙地協は、五月五日、「高田松原を守る会」主催の高田松原植樹会に他地協や一般の方々の協力を得ながら、組合員・家族三二名が参加し、植え方の説明を受けた後、六班と七班に分かれて作業を実施した。スコップで草の根や石を除いて下地を作った

**連合エコライフ21**  
地球の環境を守るために  
身近なところから、  
できることから。

環境基本法により、6月は「環境月間」、6月5日は「環境の日」。私たち一人ひとりの環境に優しい行動が地球規模の問題を解決する鍵になっています。この機会に自らの生活習慣を振り返ってみませんか。以下は環境ラベルです。何個見たことがありますか。



# 連合

# esen

**No. 129**  
【2019.5.20】

連合岩手気仙地域協議会  
大船渡市猪川町前田 9-17  
TEL 0192-27-8671  
FAX 0192-47-3471  
http://www.rengo-iwate.jp/  
発行責任者：梅木 博  
編集責任者：星 正和

## 第90回 気仙地区メーデー

笑顔あふれる未来をつくろう  
すべての仲間の連帯で！  
格差をなくし、平和を守る！



第九〇回気仙地区メーデーは、四月二七日、集會に先立ち、佐倉里公園に集合し盛商店街から総合福祉センターまで各単組・団体の組合旗や創意工夫したパネルを掲げてデモ行進をした。空模様を考慮して室内に変更したメーデー集會には三〇〇名の来賓・組合員・家族等が結集した。

集會では、梅木実行委員長が「深刻な少子高齢化による労働力不足などに触れ、復興から発展へと舵を切り替え、頑張ったものが報われる誰

もが安心・安全に暮らせる社会の実現のために行動を展開しよう」と挨拶した。来賓の皆さまを代表し中川全労済釜石支所長から挨拶をいただき、大船渡市長・陸前高田市市長などからのメッセージを紹介した。

その後、メーデースローガン、メーデー宣言を採択し、ワークルキング・クイーン選出クイズ、抽選会を実施、気持ちを込めて制作したプラカード一〇点を表彰し、委員長の団結カンパニー三唱でメーデー集會を締めく

苗木を植え、防草シートを周りに敷いて竹串を打ち込み風よけの竹簀を設置して終了。短時間ながら春の日差しを浴び心地よい汗を流した。鈴木喜久理事長は、陸前高田の復興を後押しする応援団になってほしい、今年はクローマツ苗木二〇〇本を植える計画、ボランティア活動への感謝の意を述べられた。終了後、他地協の皆さんと風食をとって交流を深めた。

**連合 労働相談ホットライン**  
0120-154-052  
雇用の不安  
雇止め  
の不安は  
ありませんか？

## 県北地協と交流会

一戸展望台を訪問、青年委員役員交流



気仙地協・県北地協の青年委員会は、5月11日、一戸観光天文台を訪問して、台長より施設案内や各望遠鏡の見え方の違い等のレクチャーを受け、口径500ミリの望遠鏡で月や星・太陽を観察、プラネタリウム鑑賞では宇宙への見識を深めた。懇談会では、自己紹介後、青年委員会の今後などを意見交流し、賑やかに時間が経過した。

長男が、三月で一歳を迎えた。とにかく可愛い。最初はどろどろしていいからなかつたが、ミルクをあげたりおむつを換えたりお風呂に入れたり寝かしつけたりしているうち、互いに少しずつ慣れてきて、今に至る。

息子から見た役割としては、パパもおもちゃ遊び担当、ママは甘える癒し担当と認識しているようで、眠いときや疲れたときは自分よりママに抱っこをせがむし、逆に自分が笑われたあやし方をママがやっても知らんぷりを決め込んだりする。

ママからすれば、パパに比べて懐の浅い、嬉しさが少ない、反面少し寂しくもあるようだ。気持ちには分らないことでもない。

だが、パパがママに勝るのはここくらいなのだ。ママの方が圧倒的に一緒にいる時間が長いし、圧倒的に子どもの面倒を見てくれる。自分の存在が必要ないとは言わないが、息子がここまで大きくなったのは、九割九分ママのおかげだ。だからこそ感謝の気持ちをもって家事育児はなるべく分担してあたっている。

これを書いている五月三日は、奇しくもママの誕生日である。少し残業すると嘘をつき、定時で帰る予定だ。ケーキを買って帰る予定だ。息子には少し甘めのヨーグルトを買っていくとしよう。 慶・S



**らど**  
Id20